科目ナンバリング	U-LAS20 10001 SB48						
授業科目名<英訳>	英語リーディング ER32 1S7 English Reading			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 中森 誉之		
群	外国語科目群	分野(分類)		使用言語	日本語		
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（外国語）（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	月1	配当学年	１回生	対象学生	全学向

[技能領域]

アカデミックリーディング

[授業の概要・目的]

私は，大学英語教育の目的とは，母語を介在させずに瞬時に英語を理解（聞く・読む）して表出（話す・書く）することができる高速な外国語処理能力の定着と，自由に運用することができる（母語に近い）語彙・表現形式の獲得であると考えています。

[到達目標]

この授業では，科学者を目指す学生にとって必要な教養を，英語学習と併行しながら身につけていきます。表出すること（話す・書く）を射程に入れつつ，科学分野の学術書・英語論文の構成や特有な表現方法，思考法と提示法などを実践的に学習しながら体得していくことを目標とします。

[授業計画と内容]

・「一般学術目的の英語」としての位置づけ
この授業では，最新の言語習得理論研究の成果を取り入れながら，文脈や場面，状況の中での語彙・表現形式の定着を中心に据えた学習方法をとることにより，学術分野においてより的確で使用域の広い英語能力獲得に向けた学習を行います。

・教材の性質や主題
母語話者による自叙伝・物語文の具体例として，James Watsonの著作を活用します。理学部推奨のこの書籍は，比較的平易な一人称文で回顧する文体であるため，内容理解技術（主題，見解と解釈，事実と叙述など）に重点を置いて学習します。また英語論文を適宜配信します。

・履修者が教室で行う作業
学術書や学術論文特有の論理展開と表現獲得に向けた学習。内容理解及び批判的思考の鍛錬。

第１回　諸連絡、授業概要説明、他
第２回～第１４回　教材を１章ずつ読み進める。英問英答などの活動や課題を行う。
第１５回　英語論述試験
第１６回フィードバック

・宿題の性質と量
予習と復習。学術表現形式リスト（配信資料）の定着。教材の熟読。

[履修要件]

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

[成績評価の方法・観点]

1回生対象英語科目の共通留意点として，5回以上欠席した場合は成績評価の対象としないとされています。

英語リーディング ER32(2)へ続く↓↓↓

英語リーディング ER32(2)

授業中及び学期末に実施する英文論述の成績を合計し，本学の評価基準で判定します。評価は，学術表現形式の定着度と，論証能力（説得性・論理性・明解性）に基づきます。これらの割合について等の詳細は授業中に受講者に説明します。試験を受けられなかった場合は，必ず代替課題を提出してください。代替課題の提出がない場合は，欠席分の点数は零点として計算して評定を出します。

学期末定期試験（筆記）50％　レポート試験　0％　平常点評価（中間試験）　50％

[教科書]

James Watson 『Double Helix』

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示します。授業の詳細や自宅学習への助言，その他の資料や情報などは，KULASIS授業サポート授業資料ページに掲載しますので参照してください。

毎週使用する配信資料は、授業予定日の一週間前からクラシス授業資料ページに掲載され、授業日午後には削除して次週分に更新されていきます。著作権保護の観点から、厳格な掲載期限が設定されており、文書の編集や印刷等に対する保護もかけられていることをご承知おきください。掲載期限は一週間のみですので、毎週ダウンロードをお忘れなく。

昨年度よりCALL教室が廃止されましたので、自分の電子機器に配信教材をダウンロードして持参の上、授業活動に臨むことになります。小さな画面の電子機器は、眼科学的な諸問題があるため、推奨しません。

[その他（オフィスアワー等）]

私の学生時代を含めて，英米の大学・大学院では，一週間に合計百冊百本の文献を読んだ上で，口頭発表やレポート作成を毎週行うことは当然の日常です。訳読式では全く対応ができません。国際的な舞台で，こうして教育を受けた人々と対等に論議しながら活躍していくためには，翻訳に代わる英文理解・表出技術が必要となってきます。従って，負荷が高い訳読法を基盤とした母語に絶えず依存する英語理解・表出の習慣から早期に脱却することを最重要課題として位置づけます。

私は数少ない言語習得論の専門家で，国内外の様々な研究教育機関の方々と日々協働しています。長年にわたって国内外の理学・工学・生理学系の研究者・技術者たちとも，産官学共同研究や認知科学プロジェクトを重ね，学者として英語論文や英語書籍を毎年発表していますので，研究者としての基本的なアプローチを具体的に示していきます。皆さんには，自らの英語学習経験を客観的に内省し，次世代を担う知識人として，ぜひ建設的な見識を身につける機会として欲しいと思います。

[主要授業科目（学部・学科名）]